

「全鍍連」 2017年 12月号 巻頭言

全鍍連 副会長 山田 登三雄

「全鍍連の副会長就任にあたり」



先般開催されました全国鍍金工業組合連合会通常総会にて、総務委員会担当副会長に任命されました、九州めっき工業組合の山田です。担当委員会は変わりますが、今後も組合のために粉骨砕身してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

前任の技術委員会では、全国めっき技術コンクールで「無電解ニッケルめっき部門」「硬質クロムめっき部門」の2部門を新たに創設するなど、技能の研鑽を目的に活動を行ってまいりました。平成29年度には500件を超えるご応募をいただき、非常に感謝しております。引き続き、より良いコンクールに繋げていただけることを期待しています。

さて、今回任命されました総務委員会は、全鍍連の健全な組織運営を目的としており、組織を支える柱であると思えます。全鍍連の活動が多方面にわたり運動の質・量ともに高まるにつれ、財政運用はその重要性を一層増してくることが予想されます。そのため、めっき業界の将来に繋がられるような運用に努めたいと考えています。

その一方で、今後の健全な組織運営には、組合事業の利用率を高めることが重要です。そのため、忙しい組合員の方々にも組合事業に関心を持っていただき、参加を促す必要がありますが、社会的・経済的ニーズが多様化する中においては、求められるニーズも多面性を帯びてきます。

そこで、他の常設委員会や事務局とのタイアップにより、機関紙やHP等を通じた広報活動を強化することで、広報媒体を通じた参画意識の向上を図れればと考えています。

また、めまぐるしく変わる経済環境において組織を活性化するには、新たな力＝若い力・女性の力が必要です。

これからの組合には、情報・技術・国際化・マーケティング等に関する経営資源の充実が必要になってきます。しかし、これらに取り組むには、青年部(若い力)の企画力やエネルギーが不可欠です。組合運営の引継ぎを円滑に行うためにも、次代のリーダーを育成していくことが組合に課せられた重要な任務です。青年部の基盤は親組合です。両者の意思疎通が良好に維持され、親組合の協力が得られることが必要な条件となります。親組合の理解の下に結果を恐れず、青年部が自由な試みや新しいことにチャレンジ可能な環境作りが重要と考えます。

このような状況から、昨今の女性経営者部会の活動には、非常に期待を抱いています。「親睦と交流」のみに留まらず、

若手経営者の悩み相談や情報交換、自由意見発表による活発な議論の場を作られることで、年々、その活動を盛り上げていただいています。更に、最近では全国レディース中央会の会員となられるなど、その推進力には感服するばかりです。

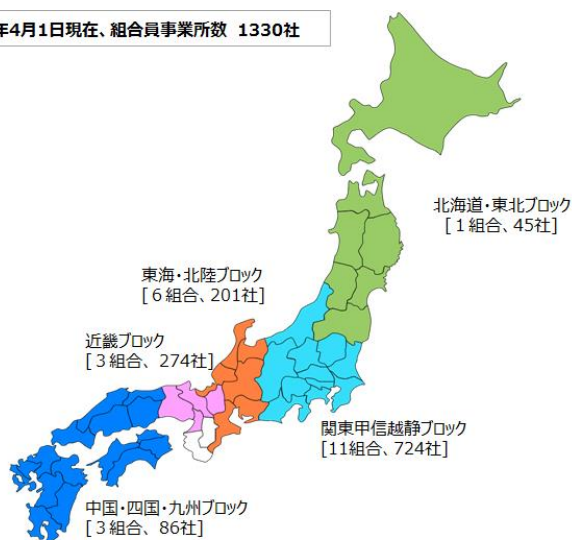
女性の感覚や感性が事業経営に必要だと感じている業界は少なくありません。そういった時代の変化を女性目線で感じ取り、現状打開に対する明確な問題意識や活動目標を提案いただき、女性経営者部会を起点としたネットワーキングによる若い力の活性化に貢献していただけるよう、支援していければと考えています。

更に、健全な事業運営を達成するには、組合員全体の事業継続を担保することが必要です。しかし、自然災害や人的災害が頻発する昨今においては、個社のみで事業を継続することが非常に困難となっています。

本年 10 月に開催されました中国・四国・九州ブロック会議では、「BCP の構築について」を課題にパネルディスカッションを行いました。本試みを発信源として、全銀連における BCP 策定・運用等を支援し、「共助」により供給責任の果たせる企業が所属する組合とすることで、取引先や地域からも認められ発展していける組合連合会になればと思っています。

最後に、来年度は 11 月に創立 70 周年式典が控えています。60 周年式典を開催しました 10 年前は、世界的な金融危機の影響により、めっき業界は戦後最大の不況の波をかぶりました。そこで、今回の式典ではより多くの組合員にご出席いただけるようにしたいと考えています。また、70 周年記念事業として全銀連七十年史の発刊も計画しておりますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成29年4月1日現在、組合員事業所数 1330社



平成 29 年度 全銀連 中国・四国・九州ブロック会議